



南郷

札幌市立南郷小学校

学校だより 第4号

令和7年 6月30日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>



「そんなつもりはなかった」～いじめのない学校をめざして

校長 関根 治彦

「悪いことをしている意識のない子どもに謝らせるのはよくない。そうだね。治彦。」

私が同級生に言われた言葉です。

妻が息子を公園に連れて行ったときに、たまたま私の小中学校の同級生が、母親になり近所の公園に遊びに来ていたところから、妻と同級生はママ友になりました。そして、頻繁に家に遊びに来るようになっていました。

ある土曜日に、ママ友2人がそれぞれ2歳前後の子どもたちを連れて、家に遊びに来ていた話です。Aちゃんがソファの上に登ろうとしていたとき、Bちゃんがぶつかって、Aちゃんがソファから落ち、泣いてしまいました。

「Bちゃん、Aちゃんに「ごめんね」しようね。」とBちゃんの母親が言うと、Aちゃんの母親である同級生が、その指導を制止し、冒頭の言葉を言ったのです。振られた私は「そうかな。ぼくは謝らせるのが正解だと思うけど。」と答えました。すると同級生は

「悪いことをしている意識のない子どもに謝らせると反省するのではなく、その場を乗り切るために適当に謝ればいいという誤学習をしてしまうでしょう。」

というのです。そこで私は

「じゃあ、自分のやったことをきちんと教えて、謝らせた方がいいんじゃないの。」

「よく学校で、いじめが起きたとき、子どもや保護者から「(うちの子は) そんなつもりではなかった」という話を聞くけど、そんなつもりはなくても、やった行為によって相手がいじめられた、嫌な思いをしているということを認識させた上で、指導するようにしているよ。」

と答えました。

子どもが「そんなつもりはなかった。」というのは、嘘を言って逃れているわけではなく、本当にそう思っているのです。つまり、いじめているという意識がないのです。だからこそ、やった行為で相手の身や心が傷ついているということを理解した上で指導することが大切です。我が子がいじめている側にいるとなったときのショックは計り知れないものがありますが、子どもの思いや話を受け止め、「そう、そんなつもりはなかったんだね。でもね…」とやったことと結果を結び付けながら、導いていくことが大切です。

また、それと同じようなものに「やった理由」もあります。「私もずっと我慢してきたんだ。」というのはその通りでしょう。だからといってその行為が許されるわけではありません。やった理由は考慮されるべきものがありますが、免罪符とはならないのです。「そう、ずっと我慢してきたんだね。でもね…」と導いていくことが大切です。その上で、ずっと我慢してきたことを相手に分からせる事が大切です。

いじめはどんな学校にもあります。いじめのない学校を子どもも、保護者も、教師も、地域みなさんも目指してほしいと思っています。そのためには、どの子も相手がどんな風を感じるか、どんな風に思うかを考えられるように育っていくことが重要です。前述したように我が子がいじめた側に立ったときには相当なショックを受けることと思います(経験者は語るですが…)。ただ、そんなときこそ、保護者と学校が協力して子どもたちを育てていく必要があると思うのです。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。